



テレグラフィコーズ



 日本語



探検しよう

① ご乗船ようこそ

② 安全情報

③ 歴史

④ 見どころ



ご乗船ようこそ

今日は海の生き物の雄大さをお客様と分かち合いたいと思います。でも、その内容は単に美しさに留まるものだけではなく、生き物の雄大さを越えた深い意味を知っていただきたいのです。海のスチュワードとして私共は海洋環境保護活動に情熱を注いでおり、また創業当初から保護活動に従事する者としてシャチやザトウクジラと同じように、お客様一人ひとりの体験を大切にしてきました。

ですから私たちと一緒に海に出ると、私たち一人ひとりに脈打つ情熱の鼓動をお客様に感じ取っていただけることでしょうか。そして私たちがなぜセイリッシュ族の海とクジラを愛してやまないのかがお判りになると思います。このツアーを終えるころには、皆様も海洋生物の保護に対する熱意が沸き上がるのを肌で感じていただけることでしょうか。

OCEAN MAGIC II

船内にはお手洗いが2カ所、後部デッキの階段の両側にあります。マリントイレなので、陸上のトイレとは仕組みがいくぶん異なります！

トイレにはトイレペーパーと排泄物以外は流さないでください。生理用品、ペーパータオル、ティッシュ、ワイプ等は一切流さないこと。ご使用の際は便座にお座りください。次にご使用になる方のために清潔にしておいてください！



船酔い

船旅の途中で気分が悪くなった場合は、乗務員にお知らせください。気分を良くするために、いくつかの対処法をご用意しています。船酔いしやすい方は、船の後部で新鮮な空気に触れながら、穏やかな船旅をお楽しみください。



安全情報とルール

一人ひとりの安全を守るために、船内にはいくつかのルールを設けています。



船内を移動する際は、常に3つの支点を意識する3点支持歩行を行い、バランスを保つようにしてください。

ボートは突然動くことがあり、また実際に突然動きます。



船内は全面禁煙です。

これには電子タバコやベイプも含まれます。



アルコールや薬物は禁止されています。

船内への開栓されたアルコール飲料の容器や薬物の持ち込みは禁止されています。



座席の上に立ったり、登ったり、走ったり、飛び跳ねたりしないでください。

船内は遊び場ではありません。おサルさんは同乗できません。ここではクジラが主役です！

1929

3

2022

テレグラフコーブ

考古学者によると、この地域に最初に先住民が住み始めたのは少なくとも1万2000年前だと推定されています。今日テレグラフコーブ周辺地域にはクワクワカワク族を始め、ナムギス族、ママリーラク族、グワウェーヌク族、クワグル族が暮らしています。テレグラフコーブの歴史ある小さな集落は古い製材所の町として1912年に設立され、現在では長さ約250メートルにおよぶ遊歩道と波止場が古い集落を取り囲んでいます。かつての家屋や建物はゴードィ&マリリン・グラハム夫妻によって復元され、現在では観光客向けの宿泊施設として使用されています。

ジョンストン海峡にあるのは有名な『ロブソン湾ラビングビーチ』。この名前は『北方系レジデントシャチ』として知られるシャチの群れが夏になるとこのエリアを頻繁に訪れ、ビーチの滑らかな小石に体をこすりつける(ラビング)ことに由来しています。1982年にロブソン湾は生態系保護区となりました。今日、この地域は『ロブソン湾(マイケル・ビッグ)生態保護区』として知られています。来るべき世代のためにこの繊細な生息地を守るため、陸路や水路からの一般の立ち入りは一切禁止されています。

1970年、ポール・スポング博士は、テレグラフコーブのすぐ沖にあるハンソン島に、小さな陸上クジラ調査ステーション、OrcaLab(オーカ・ラボ)を設立しました。シャチの『中核的な生息地』の周囲に張めぐされたハイドロフォンのネットワークは、シャチの動きを監視するのに役立っています。1994年以来、オーカラボはジョンストン海峡のクラクロフトポイントにビデオ監視ステーションを設置し、シャチや周辺の海洋生物の水面と水面下の画像の収集しています。

2002年には、シャチ解釈センター(WIC)も設立されました。ゴードィ・グラハムとレオ・トゥレチェックは波止場にあった古い倉庫を取り壊し、この地域に生息する多くの海洋哺乳類の保存されていた骨格を展示するために、イエローシダーの大きな展示館を建てました。代表的な展示物は、ジム・ボローマンから寄贈された長さ20メートルのナガスクジラの骨格標本です。

海を隔てた真向かいにあるアラートベイには、世界最大のトーテムポールがあり、ナムギス・ネーションの首都です。アラートベイにあるウミスタ文化センターでは、バンクーバー島北部の先住民の歴史について詳しく解説しています。

見どころ

4

① シャチ／オーカ: *Orcinus orca*

ブリティッシュコロンビア州の海域には、通常2種類のシャチが生息しています。魚を獲物とする北方系レジデントシャチは、一般的にバンクーバー島北部周辺で見ることができます。夏から秋にかけて産卵河川に回遊するサケを捕らえるために沿岸に集まる北方系レジデントシャチは、この個体群の重要生息地として指定されているジョンストン海峡で頻繁に見られます。このシャチは6種類のサーモンを捕食しますが、好物はキングサーモン(最大のサーモン種)です。シャチは獲物を見つけるために、エコーローケーションすなわち反響定位や生体ソナーで発した音波の反射音を利用し、周囲の環境や獲物の位置を探知しています。クリック音を始め口笛、パルス状の呼び声などさまざまな音を使ってコミュニケーションを取るシャチの個体群は、ビッグまたはトランジエントと呼ばれる海洋哺乳類を捕食の対象とするシャチよりも多くの鳴き声を発します。レジデントシャチは母系の家族単位で生活し、数キロメートル以上離れたり、数時間以上離れたりすることはめったにありません。母系家族は、しばしば他の近縁の家族グループと一緒に行動することがよくあります。ほとんどの時間を一緒に過ごす母系家族はポッドと呼ばれています。

この海域では、海洋哺乳類を捕食するビッグ(トランジエント)シャチが一年中見られ、イルカ、アザラシ、アシカ、イルカなど8種類の海洋哺乳類を捕食していることが記録されています。通常、2～6頭の小さなグループで生活し、あまり声を出さず、獲物を狩るときはひっそりと行動します。

ビッグは広い海域に分布しており、季節ごとにその分布が一定の変動を示します。この個体群は、BC州の沿岸海域から米国アラスカ州グレイシャー湾やオレゴン州海域にまで広く生息しています。ビッグの家族集団は構造的に他の種類ほど緊密ではなく、メスは自分の子供を産んだ後に母系から離れ、新しい家族集団を形成することがあります。

1



② ザトウクジラ: *Megaptera novaeangliae*

ザトウクジラは非常に移動性が高く、季節ごとに移動します。夏の間は水温の低い、豊富な餌のあるブリティッシュコロンビア州の海域で過ごし、冬には繁殖のためにメキシコやハワイの暖かい熱帯の海域に移動します。ザトウクジラは哺乳類の中でも特に長距離を移動することで知られ、往復で18,000kmを移動したクジラの記録があります。捕鯨による個体数の減少から回復するにつれて、これらのクジラはかつて豊富に生息していた多くの海域に再び戻ってきています。ザトウクジラは『むさぼり食らい』として知られており、口を大きく開けたまま獲物の群れに突進して捕食し、主にオキアミとニシンの稚魚を食べます。歴史的にザトウクジラは主に油脂製品の原料となる脂肪を取るために捕獲され、1900年代半ばには内陸水路から姿を消しました。今日では、何百頭ものザトウクジラがセイリッシュ族の海とBC州の沿岸海域で見られます。『ハンパバック・カムバック』すなわち「ザトウクジラの回復」として知られる現象により、BC州沿岸で1000頭以上の個体が目撃されています。BC州海域で夏に見られるザトウクジラは、海域ごとに異なる数種の捕食方法を用いることで知られています。特に、バンクーバー島北部の海域では『トラップフィーディング』という方法が見られ、これは他のザトウクジラの群れでは記録されていません。また、セントラルコーストではバブルネットフィーディングも観察されます。

2



3



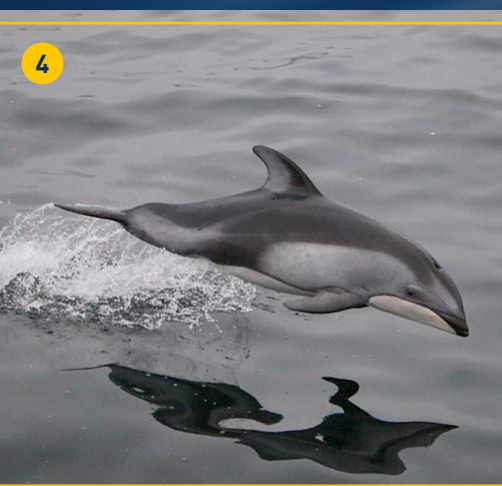
③ イシイルカ: *Phocoenoides dalli*

この種のイルカは、アメリカの博物学者ウィリアム・ヒーリー・ダルに因んで名付けられました。イシイルカはブリティッシュコロンビア州海域で一年中見られ、平均2～10頭の個体で群れを形成して行動しています。イルカはニシンなどの群れをなすさまざまな魚類を餌としています。イシイルカはクジラ目の中でも(短距離スプリントにおいて)最も高速で泳ぐことができ、ブリティッシュコロンビア州の研究者が観察した追跡行動の半数でビッグシャチやトランジエントシャチをしのぐ速さを見せました。イシイルカは、レジデントシャチとビッグシャチ／トランジエントシャチの生態型の違いを認識し、両者に対してまったく異なる反応を示します。

④ カマイルカ:

Lagenorhynchus obliquidens

通常10頭から200頭の群れで見られるカマイルカは冷水域に生息する傾向があり、北太平洋で最も個体数の多いクジラ目のひとつです。カマイルカは泳ぎが速く、エネルギッシュで社交的。アクロバティックなパフォーマンスで知られており、側転、尾びれ打ち、腹打ちなどをすることがあります。高速で泳ぐときには『ポーポイジング』や『ドルフィンリープ』をすることが多く、呼吸のために水面に浮上する際には水面から勢いよく飛び出す姿がよく見られます。捕食は気ままに60種以上の魚類と20種以上の頭足類を捕食します。



⑤ ゼニガタアザラシ: *Phoca vitulina*

ゼニガタアザラシはブリティッシュコロンビア州沿岸一帯で見られます。通常、海岸から20km以内で見られますが、時たま100kmの沖合でも見られることがあります！ゼニガタアザラシは食性が広く、季節や地域に応じて最も豊富で捕まえやすい獲物を捕食する傾向があります。しかし、好んで捕食するのは中型の群れで泳ぐ魚類で、大抵の場合イカ、タコ、エビを食べています。ゼニガタアザラシはハウルアウトと呼ばれる場所や大きな岩場にオスとメスが数頭から数百頭の群れで集まります。州内には約1400カ所のハウルアウトが確認されています。

6 トド: *Eumetopias jubatus*

トドは世界で最も大きい耳があるアシカです。オスの成獣はメスの2～3倍の大きさに成長し、年齢とともに首とたてがみが太くなります。トドは非回遊性ですが、繁殖地からかなり離れた場所まで移動することがあります。成体のオスは5月初旬に繁殖地に到着し始め、約200平方メートルの縄張りを築きます。トドは一夫多妻制で繁殖場所を奪い合い、複数のメスと交尾します。トドは50種以上の魚類や無脊椎動物を捕食し、BC州で餌となる獲物にはニシン、メルルーサ、イカナゴ、アブラツノザメ、イワシ、サケなどがあります。このうちサケは食事の約10%を占めています。



7 ラッコ: *Enhydra lutris*

ラッコはイタチ科の中で最も水生に適応した動物です。体は、目、鼻、足の裏の肉球、小さな耳介弁を除いて全体が厚い毛で覆われています。ラッコはしばしばカワウソと見分けるのが難しいことがあります。でもカワウソはラッコと比べるとはるかに小さく、尾が長く、通常は腹を下にして泳ぎますが、ラッコは仰向けに浮かんでいます。ラッコは通常、海面でラフトと呼ばれる個体の群れになって休息します。18世紀から19世紀にかけて多くの地域で乱獲されたラッコは、絶滅の危機に瀕していましたが、1911年に保護されてからは個体数が増え始めました。1970年代にはアラスカから移送が行われ、この沿岸地域に再導入されました。ラッコはBC州南部に生息していますが、復活しつつあります。



⑧ ハクトウワシ:

Haliaeetus leucocephalus

英語でボールドイーグルと呼ばれるハクトウワシ。英語でハゲという意味を持つボールドですが、実際にはハゲているわけではありません。この名前は『白い頭』を意味する古い英語の言葉に由来しています。成鳥は主に茶色で、頭と尾の羽の色は白です。ハクトウワシは主に魚を捕食し、魚を捕るときは急降下してその鋭い爪で水中から魚をつかみ取ります。孵化したばかりのヒナは『イーグレット』と呼ばれ、淡い灰色のふわふわした羽毛に覆われています。ワシは北米の鳥の中で最も大きな巣を作り、その巣は動物界全体でも最大の木の上の巣として記録されており、重さは最大で1トンにも達します。性的に成熟するのは4歳から5歳にかけてで、頭と尻尾の羽が白くなるのもこのころです。ハクトウワシは北米のみに生息する唯一のワシです。食物連鎖の頂点にあり、天敵はほとんどいません。羽毛はメスオスともに同じですが、メスはオスより約25パーセント大きくなります。この黄色いくちばしは大きくて鉤状です。若いハクトウワシの羽毛は茶色でところどころに白い斑点が見られます。カナダのハクトウワシの大半はブリティッシュコロンビア州の太平洋岸に見られます。

マイケル・ビッグ博士

ダンカン出身の海洋生物学者、マイケル・ビッグ博士はシャチに関する現代研究の創始者として知られています。2010年の研究によると、哺乳類を捕食するシャチの生態型(ビッグ/トランジェント)が他の生態型から約7万年前に分化したことが判明しています。これは以前考えられていたよりもはるかに早い時期です。これらの遺伝学的発見に基づき、研究者たち(Morin et al.)は、哺乳類を捕食するシャチの個体群を別の種として認識することを提唱しました。従って、その種が敬愛されているマイケル・ビッグ博士に敬意を表して命名されるのは当然のことでした。ビッグ博士の1970年代から1980年代にかけて北西太平洋で行われた先駆的な個体識別研究調査によって、シャチには明確な個体群が存在し、その個体群は非常に少ない数で構成されており、最終的にはこれらの個体群には異なる文化が存在することが明らかになりました。





テレグラフコーブ

24 Boardwalk, Telegraph Cove, BC, V0N 3J0

持続可能性は私共の事業の成功に欠かせないものです。私共では、お客様にこれらの動物が生息する環境の保護がいかに重要か、また環境保護が持続可能な海域にどう結びつくか、安全で責任あるホエールウォッチングの方法とその影響についても啓発活動を行っています。



プリンス・オブ・ホエールズは、年間売上の最低1%を地元の保護活動に寄付しています。



我が社は気候変動対策に積極的な海洋アドベンチャー企業に認定されており、持続可能性への取り組みを積極的に推進しています。

#princeofwhales



ご予約はこちら